

事務事業名	母子訪問事業	事務事業No.	10202000343	所属課	健康推進課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ S41年母子保健法が施行され新生児訪問を実施。H12年に児童虐待防止法施行。H16年に児童虐待防止法一部改正、「通告の義務の拡大」がなされる。H19年から次世代育成支援対策事業において、「こんには赤ちゃん訪問」が開始。H21年4月に児童福祉法の一部改正があり、赤ちゃん訪問は市町村の努力義務に位置づけられた。H22年より低出生児届出受理事務及び訪問指導が県より移譲された。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 産後2週間頃の電話訪問時、不安が強い保護者に対して新生児訪問を行ったことで「色々相談できたので安心した」との声が聞かれた。次の乳児全戸訪問時にはエシジパラ産後うつ病質問票（EPDS）の低下が見られた。					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

現 状 維 持		評 価 項 目	
現 状 維 持	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	早期に家庭訪問することで、保護者の孤立化を予防し、家庭と地域のつながりの実感や育児不安の軽減に結びつく。また、総合計画で掲げる「母子支援体制の充実」に結びつく事業である。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	新生児及び乳児の健康の保持増進、疾病の早期発見のため、また保護者の心身の様子や養育環境を把握し育児に関する不安や悩みを傾聴し、必要な支援を行うため、行政保健師等専門職が訪問することは妥当と考える。
	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)	<input type="checkbox"/> 向上余地がない	「産後保健師等から十分なケアを受けたと感じた割合」「子育てが楽しいと感じている保護者の割合」が昨年より低下しているため、訪問等による支援の充実が必要と考えられる。
有 効 性	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	出生児全戸訪問により、相談・助言を実施することで、保護者の育児不安の軽減や孤立化の予防につながっている。虐待防止や育児不安軽減を目的としているため影響がある。
	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) → 具体的な手段、事務事業名	<input type="checkbox"/> 余地がない	家庭訪問は保健師・助産師・看護師等専門職の評価を要するため、統廃合・連携は難しい。母子保健法に定められた新生児訪問指導も兼ねるため効率的と考える。
効 率 性	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない	妊娠経過から産後までの事前情報を元に困難ケースは保健師が、他は助産師・看護師等医療職を活用し全戸訪問が達成できるよう実施しているため、削減余地はない。
公 平 性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である	生後4か月までの全乳児とその保護者が対象であるため公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																			
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇒	家庭訪問により環境に応じた支援が行えた。長期里帰りや入院児については随時連絡を取ったり、里帰りの場合は必要に応じ居住の市町村に訪問依頼を行い、切れ目ない支援を行っている。心身が不安定になりやすい産前産後2週間頃、助産師による電話訪問を行うことで、必要時は早期の新生児訪問につなぎ、保護者の孤立感や育児不安の軽減に結び付けた。																			
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																			
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 → <input type="checkbox"/> 改革改善を行う → (<input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th rowspan="2">向上</th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		成果	向上	コスト			削減	維持	増加	維持		○			低下				
成果	向上	コスト																			
		削減	維持	増加																	
維持		○																			
低下																					
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		(6) 事務事業優先度評価結果																			
		成果優先度評価結果 <input checked="" type="checkbox"/> ①																			

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>